

令和 8 年 4 月～6 月期地域産業経営動向調査の結果をとりまとめました

堺市と堺商工会議所では、堺市内の景気動向を把握するため、令和 8 年 4 月～6 月期の地域産業経営動向調査を以下のとおり実施し、調査結果をとりまとめました。

1 調査対象 堺市内に所在する事業所 800 社（回答企業 404 社 回答率 50.5%）

2 調査期間 令和 8 年 6 月 12 日（金）～6 月 24 日（水）

3 結果概要

今期（4 月～6 月期）の前年同期比は、前期と比較すると資金繰り DI[※]、雇用人員 DI が改善、売上高 DI がやや改善、採算 DI が横ばいとなり、一方で業況判断 DI は 2 期連続で悪化となっている。

来期（7 月～9 月期）の予測は、業況判断 DI が改善、雇用人員 DI がやや改善、資金繰り DI が横ばい、売上高 DI、採算 DI が悪化となっている。

今期の前年同期比数値を見ると、建設業において悪化傾向にある項目が多い一方、卸売業では改善傾向にある項目が多く、業種間で差異がみられる。

中東情勢の悪化による原油価格の高騰・資材不足等をはじめ、経営環境の不透明感が増していることから、引き続き市内企業の動向を注視する必要がある。

※DI とは「デフュージョン・インデックス」の略称で、経済活動の状況を把握するために複数の指標をまとめて分析し、景気の方角性を示す統計指標のこと。

○業況判断	前年同期比の指標は 2 期連続悪化（ $\Delta 16.3 \Rightarrow \Delta 21.5$ ） 来期見通しの指標は改善（ $\Delta 21.5 \Rightarrow \Delta 16.1$ ）
○売上高	前年同期比の指標はやや改善（ $\Delta 6.9 \Rightarrow \Delta 5.9$ ） 来期見通しの指標は悪化（ $\Delta 5.9 \Rightarrow \Delta 8.9$ ）
○採 算	前年同期比の指標は横ばい（ $\Delta 7.1 \Rightarrow \Delta 6.4$ ） 来期見通しの指標は悪化（ $\Delta 6.4 \Rightarrow \Delta 9.4$ ）
○資金繰り	前年同期比の指標は改善（ $4.2 \Rightarrow 7.4$ ） 来期見通しの指標は横ばい（ $7.4 \Rightarrow 6.9$ ）
○雇用人員	前年同期比の指標は改善（ $\Delta 3.2 \Rightarrow 0.7$ ） 来期見通しの指標はやや改善（ $0.7 \Rightarrow 2.0$ ）

問
い
合
わ
せ
先

担 当 課：産業振興局 産業戦略部 産業成長推進課
電 話：072-228-7414
ファックス：072-228-8816

令和8年4月～6月期
地域産業経営動向調査
〔報告書〕

堺 市

〔 調査実施機関

堺 商 工 会 議 所 〕

調査の概要

1. 調査目的 堺市管内事業所の経営動向の実態を四半期毎（3月期・6月期・9月期・12月期）に調査し、業況判断指数 DI 値等により景気動向を把握する。
2. 調査対象 堺商工会議所会員事業所 800 社（建設業 200 社・製造業 200 社・卸売業 100 社・小売業 100 社・サービス業 200 社）
3. 調査期間 令和 8 年 6 月 12 日（金）～令和 8 年 6 月 24 日（水）

4. 回収率	調査対象数	回収数	回収率
建設業	200 社	103 社	51.5%
製造業	200 社	100 社	50.0%
卸売業	100 社	50 社	50.0%
小売業	100 社	51 社	51.0%
サービス業	200 社	100 社	50.0%
全産業	800 社	404 社	50.5%

【主要な表現について】

- 業況判断 … 調査対象企業が自らの業績に下した判断。
- DI 値 … 「好転」したとする企業割合から「悪化」したとする企業割合を差し引いた値。

【各項目別の DI 値の意味について】

- 業況判断 … DI 値がプラスなら「好転」を、マイナスなら「悪化」を表す。
- 売上高 … DI 値がプラスなら「増加」を、マイナスなら「減少」を表す。
- 採算 … DI 値がプラスなら「好転」を、マイナスなら「悪化」を表す。
⇒ 今期状況 … DI 値がプラスなら「黒字基調」を、マイナスなら「赤字基調」を表す。
- 資金繰り … DI 値がプラスなら「容易」を、マイナスなら「困難」を表す。
- 雇用人員 … DI 値がプラスなら「増加」を、マイナスなら「減少」を表す。
⇒ 今期状況 … DI 値がプラスなら「不足」を、マイナスなら「過剰」を表す。

調査結果の概観

今期(4月～6月期)の前年同期比を見ると資金繰りDI、雇用人員DIが改善、売上高DIがやや改善、採算DIが横ばい、業況判断DIが2期連続で悪化となっている。

来期(7月～9月期)の予測については、業況判断DIが改善、雇用人員DIがやや改善、資金繰りDIが横ばい、売上高DI、採算DIが悪化となっている。

今期の前年同期比数値をみると、建設業において悪化傾向にある項目が多い一方、卸売業では改善傾向にある項目が多く、業種間で差異がみられる。中東情勢の悪化による原油価格の高騰・資材不足等をはじめ、経営環境の不透明感が増していることから、引き続き市内企業の動向について注視していく必要がある。

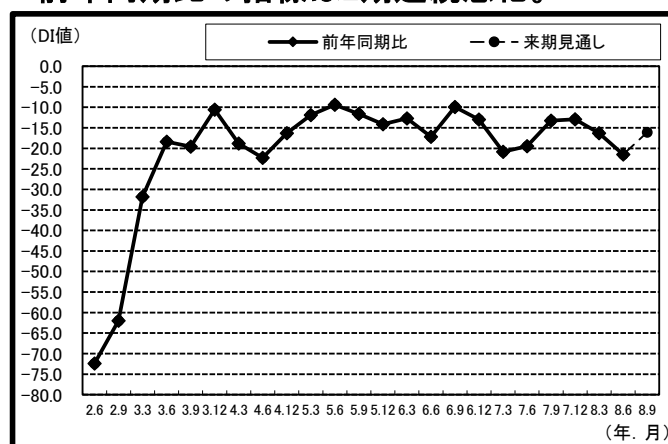
1. 業況判断の動向

・前年同期比の指標は2期連続悪化
($\Delta 16.3 \Rightarrow \Delta 21.5$)

来期見通しの指標は改善と予測
($\Delta 21.5 \Rightarrow \Delta 16.1$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、卸売業は改善、小売業は横ばい、サービス業はやや悪化、建設業、製造業は悪化。

・前年同期比の指標は2期連続悪化。



2. 売上高の動向

・前年同期比の指標はやや改善
($\Delta 6.9 \Rightarrow \Delta 5.9$)

・来期見通しの指標は悪化と予測
($\Delta 5.9 \Rightarrow \Delta 8.9$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、卸売業、サービス業は改善、小売業はやや悪化、建設業、製造業は悪化。

・前年同期比の指標はやや改善



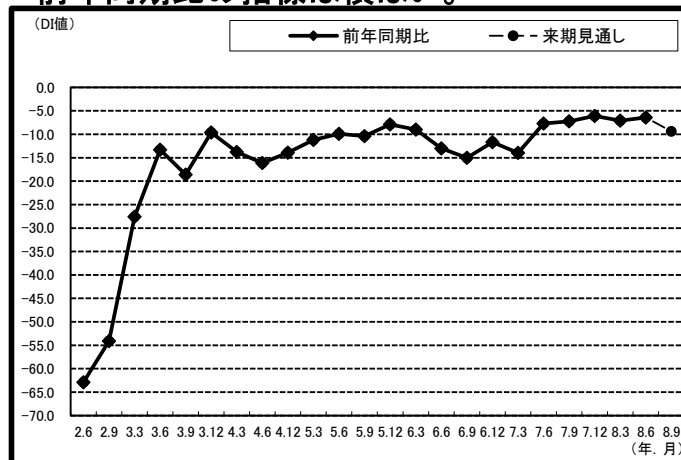
3. 採算の動向

・前年同期比の指標は横ばい
($\Delta 7.1 \Rightarrow \Delta 6.4$)

・来期見通しの指標は悪化と予測
($\Delta 6.4 \Rightarrow \Delta 9.4$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、小売業は2期連続で改善、卸売業、サービス業は改善、建設業、製造業は悪化。

・前年同期比の指標は横ばい。



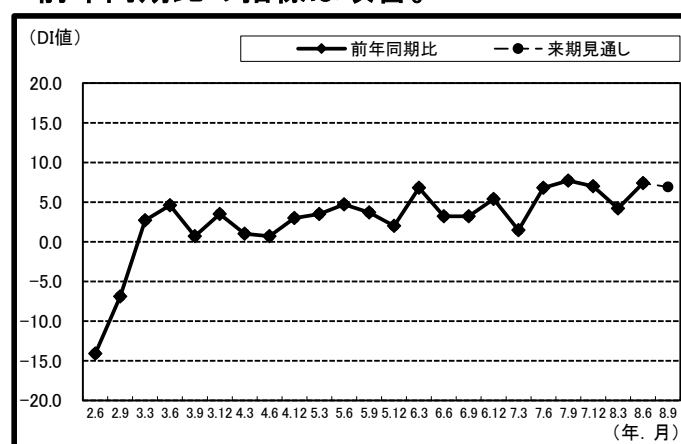
4. 資金繰りの動向

・前年同期比の指標は改善
($4.2 \Rightarrow 7.4$)

・来期見通しの指標は横ばいと予測
($7.4 \Rightarrow 6.9$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、卸売業、小売業、サービス業は改善、製造業は横ばい、建設業はやや悪化。

・前年同期比の指標は改善。



5. 雇用人員の動向

・前年同期比の指標は改善
($\Delta 3.2 \Rightarrow 0.7$)

・来期見通しの指標はやや改善と予測
($0.7 \Rightarrow 2.0$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、建設業、製造業、卸売業は改善、サービス業はやや改善、小売業は悪化。

・前年同期比の指標は改善。

